

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **108** 号

平成31年 1・2・3月



●五大尊像のうち大威徳明王像 (岐阜 来振寺)

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
-特集 大宿所-
~1月20日(日) 東新館

特集展示

新たに修理された文化財
~1月20日(日) 西新館

特別陳列

お水取り
2月8日(金)~3月14日(木) 東新館

特別陳列

覚盛上人770年御忌
鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興
2月8日(金)~3月14日(木) 西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催 なら仏像館
中国古代青銅器
通期開催 青銅器館
珠玉の仏教美術
~3月14日(木) 西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 大宿所―

1月20日(日)

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮社の祭礼です。長承四年（一一三五）の若宮社御遷座を承け、翌保延二年（一一三六）九月十七日にはじまったとされています。その後、祭日は室町時代から十一月二十七日、明治十一年（一八七八）からは現行の十二月十七日と変わりながらも、古儀の伝統を守り続けてきました。おん祭では、若宮神が御旅所に一日だけ遷座されますが、そこに芸能者や祭礼の参加者が詣でる風流行列が有名です。

本展覧会は、おん祭の歴史と祭礼の様子を紹介する恒例の企画です。今回は、華やかな風流行列や祭礼の様々な場面を描く絵巻を展示するとともに、祭礼に参加する大和土（願主人）の潔斎の場であった大宿所について取り上げ、祭礼でにぎわう江戸時代の奈良町の様子も紹介します。またあわせて、春日信仰に関する絵画も展示します。



春日鹿曼荼羅（奈良 大福寺）



春日御祭次第 上巻（奈良 郡山城史跡・柳沢文庫保存会）



春日若宮御祭礼絵巻 中巻（奈良 春日大社）

特集展示

新たに修理された文化財

1月20日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、近年修理された収蔵品を展示公開し、あわせて修理内容についてもパネルで紹介いたします。博物館における文化財修理について、本特集展示が皆様の関心と理解を一層深めていただく機会となれば幸いです。



◎ 鳳凰文獻金経箱(当館) 修理の様子

特別陳列

お水取り

2月8日(金)～3月14日(木)

春待つ奈良の年中行事として知られる東大寺二月堂のお水取り。正式には「修二会」とい、本尊の十一面観音に罪過を懺悔し、五穀豊穰・除災招福を祈る「悔過」の法会です。三月一日から十四日にかけて、心身を清めた僧（練行衆）が参籠し、体を投じて懺悔する「五体投地」などの儀式に臨みます。この法会は天平勝宝四年（七五二）に実忠和尚が創始したと伝えられ、今日まで一度も欠かすことなく「不退の行法」として勤め続けられてきました。

本展は、お水取りの時事にあわせて開催する恒例の企画です。実際に用いられた法具や、歴史を伝える絵画・古文書・出土品などから、お水取りへの理解を深めていただければ幸いです。



◎二月堂本尊光背（奈良 東大寺）
※なら仏像館にて展示



二月堂縁起 上巻(部分) (奈良 東大寺)



◎二月堂神名帳(部分) (奈良 東大寺)

特別陳列

覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と 戒律復興

2月8日(金)～3月14日(木)

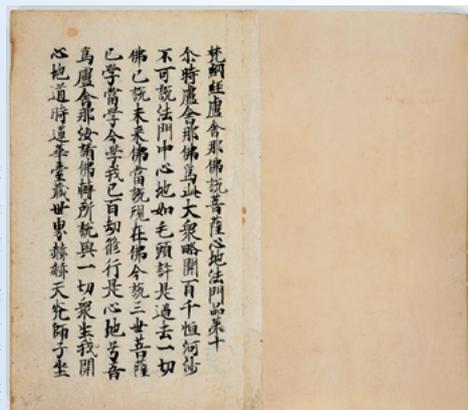
唐招提寺中興の祖と仰がれる覚盛上人は、西大寺の叡尊等とともに戒律復興運動の中心となった僧です。唐招提寺の長老であった期間はわずか五年でしたが、その後の寺勢興隆の礎を築き、建長元年（一二四九）に齢五十七で生涯を閉じました。上人の命日である五月十九日には、今でも毎年、中興忌梵網会が執行され、一般には法要後の「うちわまき」行事で知られています。本展では、上人の事跡を顕彰するとともに、その前後に活躍した貞慶や證玄といった高僧にも触れ、鎌倉時代の唐招提寺の様相に迫ります。



◎釈迦如来立像(礼堂所在) (奈良 唐招提寺)



◎大悲菩薩(覚盛)坐像 (奈良 唐招提寺)



梵網経 巻下 (奈良 唐招提寺)

當麻寺西塔発見の舍利容器について

当館学芸部長 内藤 栄

修理中の當麻寺（奈良県葛城市）の西塔（図1）から、昨年七月、金・銀・金銅の三重の舍利容器をはじめ、舍利荘嚴具（舍利を飾る品や奉納品）が発見された。発見された場所は、心柱の頂上、ちようど水煙の中心部に当たる位置であった。奈良国立博物館は修理を担当した奈良県教育委員会より調査を依頼され、このうちの金・銀・金銅の舍利容器を飛鳥時代後期（白鳳期、七世紀後半〜八世紀初頭）と推定した。当初発見された品々は全て塔に戻される予定であったが、舍利容器は白鳳期にさかのぼる貴重な作品であるため、舍利容器の複製品を作成し舍利を納めて塔に戻すこととし、舍利容器の原品は奈良国立博物館に寄託して、広く一般に公開されることになった。なお、舍利容器以外の品は多くが後世の追納品であるため、塔に戻されることになった。



図1 西塔

三重の容器のうち、舍利を直接納めるのが金製舍利容器（高一・二センチ、図2）である。金の鍛造製で、身はやや下ぶくれの球形を見せ、薄い円筒形の蓋をのせている。その形は、崇福寺址（滋賀県大津市）の塔心礎から発見された舍利容器（国宝、近江神宮所蔵）の金蓋碧瑠璃壺ときわめて近い。崇福寺は六六八年に建立された寺院で、塔の建立もその頃と思われる。金製舍利容器も同時期の作と考えて良いと思われる。



図2 金製舍利容器（當麻寺西塔発見）

金製舍利容器は、銀製舍利容器（高三・一センチ、図3）内に安置されていた。これは銀の鍛造製で、球形の身に薄い円筒形の蓋をのせる。蓋にはそろばん玉形のつまみがつく。これと近似した形の作品に、葛城市加守出土の金銅骨蔵器（重要文化財、東京国立博物館所蔵）がある。出土地は二上山東麓であり、當麻寺からも近い。埋葬された人物は不明だが、西塔の舍利容器と何らかのつながりを感じる。なお、火葬は白鳳末に始まつており、金銅骨蔵器もその頃に置くことが可能であろう。



図3 銀製舍利容器（當麻寺西塔発見）

一番外側の容器が金銅製舍利容器（高九・〇六センチ、図4）である。やや押しつぶしたような球形で、鑄造後（ろうぞうご）にろくろで形を整え、金メッキを施している。径の一番大きなところを合口（あいくち）としているが、蓋の上部には容器の蓋をイメージした円形の段がある。銀製舍利容器を入れるには大ききく、おそらく様々な奉納品もあわせてこの中に納められたのであろう。



図4 金銅製舍利容器（當麻寺西塔発見）

當麻寺が現在の地に建立されたのは、六八一年と伝えられる。実際、當麻寺は金堂の弥勒仏坐像、四天王像、梵鐘（ぼんしゆ）など白鳳期の作品を伝えている。當麻寺の歴史を考えれば、白鳳期にさかのぼる舍利容器が伝わっていても不思議ではない。問題は西塔の建立が平安時代前期と考えられる点である。西塔が建つ場所からは白鳳瓦が発見されており、以前よりここに前身塔が存在したという説があつたが、あらためてこの説が見直されよう。

白鳳期には数多くの塔が建立され、舍利が納められた。しかし、今日この時期の舍利容器の作例はきわめて少ない。當麻寺西塔の舍利容器は金・銀・銅の三重が揃い、しかも土中しなかつたため状態がきわめて良好である。古代仏教美術史に新たなページを飾る作品である。

◆舍利容器（図2〜4）は、西新館名品展「珠玉の仏教美術」にて、2月19日から3月14日に展示。

❖ イベント情報 ❖

■春日大社にておん祭展・名品展無料券付き小型チラシを配布します

下記期間中に春日大社で配布される小型チラシをご持参の方は、この4日間に限り、おん祭展と名品展（なら仏像館・青銅器館を含む）を無料で、ご覧いただけます。

【実施日】 1月2日(水)～1月5日(土)

❖ 公開講座 ❖

◆特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 一特集 大宿所一」

1月12日(土)「春日奥山の水神信仰と若宮神社」
松村 和歌子 氏（春日大社国宝殿主任学芸員）

◆特別陳列「お水取り」

2月16日(土)「修二会(お水取り)について」
筒井 寛昭 師（東大寺長老）

◆特別陳列「覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」

2月23日(土)「覚盛上人の事跡一唐招提寺中興一」
野尻 忠（当館学芸部企画室長）

【時 間】 各回とも13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:00から講堂前にて入場整理券を配布します(お1人様につき1枚)。

※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

平成29年4月1日(土)より、当館を今まで以上に楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧くださいか、当館観覧券売場へお問い合わせください。



◆キャンパスメンバーズ

平成30年12月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意し、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■1月20日(日)「奈良時代の二つの紫紙金字経」

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

紫色に染めた紙に金泥で経文を記した紫紙金字経。奈良時代の遺品として『金光明最勝王経』と『華嚴経』が有名です。これら紫紙金字経の書写の実態を、正倉院文書と照らし合わせながら探ります。

■2月17日(日)「仏像調査からわかること その5 一南予地方の調査の成果を中心に一」

岩田 茂樹(当館学芸部研究員)

日本には、あまり一般に知られていないけれども、優れた、そして興味深い仏教彫刻がまだまだ残っています。今回は、愛媛県のいわゆる南予地方における調査の成果を中心にご報告します。

■3月17日(日)「春日東西塔の新知見」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

神仏習合の影響を受けて春日大社境内に建立された春日東西塔。今は博物館敷地内に土壇を残すのみですが、昭和40年の発掘調査出土品の再整理により、近年明らかになりつつある当時の姿をご紹介します。

■4月21日(日)「仏像の『かざり』をめぐって」

三本 周作(当館学芸部研究員)

ほとけのきらびやかな姿を演出する仏像の「かざり」。普段の拝観ではあまり注目されない「かざり」ですが、実は仏像研究の上でも重要な情報を含んでいることを、いくつかの観点から紹介します。

■5月19日(日)「古代寺院の堂内荘厳」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

古来、仏堂の内部は、浄土の光景を表現すべく美しく飾られました。なかでも壁画や、柱や天井などの部材に施された彩色に注目し、古代寺院において、堂内がどのように荘厳されていたのかをご紹介します。

■6月16日(日)「古神宝の世界」

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

神社には、古来多種多様な品々が神宝として捧げられました。それらの一部は今日古神宝と称され、大切に守り伝えられています。古神宝の種類や意匠、造形的な特色についてご紹介致します。

【時 間】 各回とも14:00～15:30(13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(入場には入場整理券が必要です)

※当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

◆奈良国立博物館賛助会

平成30年12月31日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)66名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 ㈱読売新聞大阪本社、結の会、㈱葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 ㈱奥村組西日本支社、㈱朝日新聞社、㈱ライブアートボックス、㈱ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(㈱)関西美術品支店、㈱尾田組、㈱伏見工芸、㈱木下家具製作所、㈱天理時報社、㈱きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(㈱)、校倉な会、㈱南都銀行、小山(㈱)、医療法人社団成風会、金剛(㈱)、㈱グラスパウハウージャパン、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部

〔個人会員(新規)〕 小山正幸様(平成30年10月ご入会)

展示品の
みどころ

け こん きょう
華嚴経 卷第七十

重要文化財
1巻
縦26.7cm 長755.6cm(表紙を除く)
紫紙金字
奈良時代(8世紀)
当館



紫色の染め紙を継ぎ、界線を銀泥で引いて、経文を金泥で書
写した『華嚴経』の写本である。金字部分は書写の後、丁寧に磨
かれており、1250年以上前のものとは思えない輝きを今も放つ。
謹直な書体の経文だけでなく、表紙から軸までの装丁は、全体
として非常に完成度が高く、平城の都の官営写経所で製作され
たものと考えられている。しかし、奥書等がないため書写の具体
的な年代は不詳で、同じ紫紙金字の写経でも、諸国分寺の塔
に納められたことで著名な『金光明最勝王経』(当館ほか蔵)に
比べると、あまり認知度が高くないのは惜まれる。

さて、本品の巻末の紙背には、写経時の校正に関わる2つの
墨書がある。これまで、一つは「□校馬甘」、もう一つは「□道交
了」と読まれていた。一つ目は問題ないが、二つ目は「□道主了」
とも読めなくはない。もしこれが「道主」という人名であれば、本
品の書写年代を特定する手掛かりとなる。一つ目の墨書にある
「馬甘」と、「道主」という名の人物を当時の写経所関係の古文書
から探すと、上馬甘と下道主が見
出される。2人が同時に校生として
活動していたのは天平20年(748)
～天平勝宝3年(751)頃であり、そ
の間に本品も製作された可能性
が高いのではなかろうか。

野尻 忠(当館学芸部企画室長)



◆1月16日～2月17日 西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

くわがたいし しゃりんせき いしくろ
鍬形石・車輪石・石釧

奈良県・京都府北和城南古墳出土
[鍬形石(左上)]長24.5cm 幅14.1cm
古墳時代(3世紀後半～4世紀)
当館



古墳時代の前期に盛んに製作され、被葬者に副葬された腕
輪形石製品。緑色凝灰岩製で、形状の違いにより鍬形石(上)、
車輪石(右下)、石釧(左下)と呼び分けられる。「腕輪形石製
品」という曖昧な表現をとるのは、これらが装身具だったとは限
らず、むしろ被葬者のステイタスシンボルであったと考えられて
いることによる。

腕輪形、とは言うものの、鍬形石、車輪石などはいささか奇妙
な形だと思ふ方もいらっしゃるかもしれない。実は、これらは弥
生時代に存在した南海産の貝輪(貝製の腕飾り)を祖形とする。
鍬形石はゴホウラ、車輪石はオオツタノハまたはカサガイ、
石釧はイモガイ製の貝輪を模したとされ、それゆえ個性的な形
状を呈しているのだ。

北和城南古墳は、奈良県北部から京都府南部にかけての古
墳という漠然とした名称で、その出土品は銅鏡、腕輪形石製
品、玉類、鉄刀など73件におよぶ。長らく具体的な出土地が不
詳であったが、近年、「北和城南」のみならず大阪府東部も含む
複数の古墳からの出土品であると究明された、注目の遺品であ
る。

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

◆～3月14日 西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間/午前9時30分～午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで。
- ・なら瑠璃絵の期間中、2月10～14日は午後8時30分まで、
2月8・9日は午後9時まで。
- ・東大寺二月堂修二会(お水取り)の期間中、3月3～7日、
10・11・13・14日は午後6時まで、3月12日は午後7時まで、
3月1・2・8・9日は午後8時まで。
- ・2月3日は午後7時まで。
- ※いずれも入館は閉館の30分前まで。

■休館日/毎週月曜日、1月1日

- ・ただし、1月14日、2月11日、3月4・11日は開館し、
1月15日(火)は休館。

■無料開館日(名品展・特別陳列・特集展示)/
2月3日(日)(節分)、2月24日(日)

※2月24日(日)は天皇陛下御即位30年を慶祝し、無料となります。

●=国宝、○=重要文化財

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者
手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は
無料です。
- ※成人の日(1月14日)は、新成人の方は無料です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。
- ※1月の開館延長日の午後5時以降に観覧される方は団体料金を
適用します(ライト割引)。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用し
ます(子どもといっしょ割引)。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、または
JR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」
バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの
県営駐車場等(有料)をご利用ください。